

色彩学

BULLETIN OF THE COLOR SCIENCE ASSOCIATION OF JAPAN

VOLUME 1 NUMBER 2 2022



巻頭言 色彩によるレジリエンス

日本色彩学会第53回全国大会 [名古屋] '22 実行委員長 羽成 隆司 (椋山女学園大学)

「日本色彩学会第53回全国大会 [名古屋] '22」を、2022年6月25日～26日、名古屋市の椋山女学園大学で開催します。椋山女学園大学は2017年度の研究会大会の会場でもありました。この時は晩秋でしたが、今回は夏至の頃です。名古屋は少々蒸し暑いと思いますが、お越しいただけますとたいへん嬉しいです。

本大会では70件近くの研究・作品発表がエントリーされました。色弁別、測色、画像処理、色覚多様性、照明、顔・表情、嗜好、教育、文化、景観・建築、ファッション、デザイン等、広範かつ多彩な内容です。

針山孝彦氏 (浜松医科大学) をお招きする特別学術講演『蟲 (生き物) が観る世界を学び持続性社会を実現する蟲鳥学の創成』では、新たな視点による刺激的な生態学のお話を伺います。講演概要にある「我々は、地球を席卷している人類の尺度で環境を理解するだけでなく、生きとし生けるもの達それぞれが持つ情報世界を理解し、蟲の世界観とともに生態系のバランスを保つ技術確立が必要となった」は、後述する本大会のテーマ「カラー・レジリエンス」に大いに通じるメッセージと言えるでしょう。

伊藤望氏 (三鷹の森ジブリ美術館) をお迎えしての招待講演『アニメーションの色彩～スタジオジブリ作品を彩った保田道世氏について～』では、スタジオジブリ作品の色彩設計に大きな功績を残した保田道世氏に関わった作品を中心に、アニメーションの色彩表現とその魅力についてお話しいたします。この講演は、今年11月1日、本大会会場に近い愛知県長久手市にジブリパークが開園するというご縁を契機に、ジブリ作品の色彩に関する講演を企画してはどうだろうかという元東海支部長大竹昌幸氏の発案がきっかけでした。(余談ですが、私は長久手市出身、ジブリパーク近くに生まれ育ちました。ご縁をいっそう強く感じています！)

本大会のテーマは、「カラー・レジリエンス Our transition toward COLOR resilience」です。“レジリエンス”は心理学の分野では精神的回復力と訳され、“困難で脅威を与える状況にもかかわらずうまく適応する過程や能力、および適応の結果のこと”という意味で用いられます。また、悲惨な状況を長期間経験していてもよい適応状態に至る者が多く存在し得ること、その要因には「新奇性追求」や「肯定的な未来指向」などがあることが明らかにされています(『最新心理学事典』p.743, 平凡社より)。病気、戦争、災害といった最近の国内外の状況を見たとき、私たちが求めているのは、まさにこのレジリエンスと呼ばれる力ではないでしょうか。学会大会は、「新奇性追求」や「肯定的な未来指向」の強そうな人々——色彩をめぐる新奇な事実を求める人や、色彩を用いた肯定的な未来の実現を目指す人——が多く集う場です。本大会が、色彩によるレジリエンスのきっかけとなることを祈念しています。

本大会は、対面形式とオンライン形式双方の利点を生かし、ハイフレックスによる開催形式としました(2022年4月末現在)。本学会の年次大会としては初の形式となります。ハイフレックスであることを考慮し、ポスター形式を取りやめてすべて口頭発表形式とするなど、これまでとは少々異なる試みもあります。はじめてのハイフレックスですので、予想しないトラブルが発生し、参加者の皆様にご迷惑をおかけすることがあるかもしれません。その際は、なにとぞご寛容の上、おそらく今後はさらに導入が進むハイフレックス開催に適應するための不可欠なプロセス、“失敗もレジリエンスにつながる”とご理解いただければ幸いです。実行委員全員、大会運営に懸命に努めますので、ぜひ本大会にご参加ください。心よりお待ちしております。